

日本精神保健社会学会

2022年9月30日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第76号

TEL：03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

発行人：宗像 恒次 編集人：山本 美奈子

E-mail:murakami@t-mental.co.jp

第28回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ

大会テーマ：『今、求められる社会システムの変化と課題』

会員の皆様には、日ごろより学会活動の運営にご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

今年度の学術大会・総会は、昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。今年の大会テーマは『今、求められる社会システムの変化と課題』です。参加される皆様とともに、学び、考え、語り合う1日になりましたら幸いです。

●開催日時：2022年11月23日（水）祝日、10時00～17時00分

●大会テーマ：『今、求められる社会システムの変化と課題』

①基調講演 宗像 恒次 学会長

②シンポジスト

○光本 歩 氏

（特定非営利活動法人ウィーズ 理事長）

○新行内 勝善 氏

（NPO 東京メンタルヘルス・スクエア カウンセリングセンター長）

○殿山 希 氏

（筑波技術大学保健科学部 教授）

●ツール：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催

●参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にて、氏名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、お申込みください。



- 参加費：一般 3,000 円、学生 2,000 円
- 参加振込み：2022 年 11 月 11 日（金）までにお振込みください。
- 振込み先：ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

★研究発表の募集期間を延長しました★

1. 研究発表の募集期間と送付方法

研究発表の申し込みは、10月16日（日）まで延長しました！

この機会に、皆様の日々の研究成果や実践成果など、ぜひ、お申し込みください。発表希望の方は、学会指定の抄録 A4 一枚を記載のうえ、演題名、代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）を記載のうえ、学会事務局（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にメールにて、お申し込みください。

なお、抄録の定型フォーマットは、本学会のホームページに「実践報告型」、「科学研究型」をアップしています。発表形式に応じていずれかを選択・ダウンロードし、**A4、1枚**にて記載してください。

3.採択の可否

採択のご連絡は、10月31日（月）までに発表代表者へメールにてご連絡します。

4. 発表要件

1) 学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2021年度の年会費（2021年10月1日～2022年9月30日）と2022年度の年会費（2022年10月1日～）の納付済みであることを要件とします。

2) 研究発表の参加費

研究発表が採択された方は、**別途 2,500 円**が必要になります。振り込みは、**11月11日（金）**までをお願い致します。**振込み名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。**

基調講演のご案内

○ 宗像 恒次氏（日本精神保健社会学会会長、筑波大学名誉教授）

テーマ：今、求められる社会システムの変化と課題



一般に社会システムの変化や課題は、その国や時代の自然環境や疾患構造を反映する。食糧や水が不足する国や時代の社会システムは、人々は生存をかけて強権を求め、その強権に依存する非情報化したシステムやその課題を生み出す。他方、グローバル化した時代でのコロナ禍のパンデミックの中では言語、民族、性別、年齢の差異を越えた公衆衛生が求められるために、ITを利用した多様性の中で共生する強権によらない情報化した社会システムが生まれる。

多様性の中で共生する社会では、言語、民族、性別、年齢による区別は差別として乗り越えるべき課題となる人権意識の社会的強化が求められる。この社会の中では、価値観、欲求や感情の差異からストレスが生じやすく、精神的に、身体的にストレス問題が生じやすくなっており、それらの問題を自ら乗り越える力（レジリエンス）を高めるための方法やツールが社会的にも、個人的にも求められることになる。

シンポジウムのご案内

今回は、コロナ禍におけるオンラインの影響について、各専門の方々をシンポジストとしてお招きし、お話しをして頂きます。ファシリテーターは、本学会の理事、山口豊氏（東京情報大学）が行います。当日のシンポジストの要旨をご紹介します。

○光本 歩 氏（特定非営利活動法人ウィーズ 理事長）

テーマ：離婚家族のオンライン支援の光と闇

2020年春、親の別居や離婚を経験する子をはじめ家庭環境に悩む子どもたちの置かれる状況は苦しさを増しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、子は休校、親はテレワークといった環境が家庭をより閉鎖的にしたように感じます。

当団体では子どもたちから家庭環境に関するLINE相談を受け付けていますが、月200件ほどであった相談件数はパンデミック以後、月2,000件前後に膨れ上がりました。別居

や離婚の後に離れて暮らす親と子どもの交流をサポートする面会交流支援でも、中止やオンライン化へのかじ取りを余儀なくされるケースが多くありました。

パンデミックの有無にかかわらず、離婚家族の抱える問題は度々社会問題として報道されています。シングルマザー・シングルファザーは貧困や孤立によって子育てに息詰まり、子と別居することになった別居親の自殺率も増加しています。子どもも、不登校やひきこもり、うつ症状を抱えるなど別居や離婚、その前後の葛藤は、以前から家族それぞれに課題をもたらしていたのです。オンライン社会が進んだことによる離婚家族への良い影響・悪い影響、支援活動への影響は様々あります。当日は支援現場の実情をもとにお伝えしたいと思います。

○ 新行内 勝善 氏

(NPO 東京メンタルヘルス・スクエア カウンセリングセンター長)

テーマ：オンライン非対面コミュニケーションの広がりで変化している社会と人と私と

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の広がりや、どのような変化をもたらしているのかに関しての話題提供を行いたいと考えています。特に、新型コロナが人と人とのリアルなコミュニケーションの障壁となって以降、SNSはますます広がりを見せています。SNSコミュニケーションには、対面や電話によるコミュニケーションとは違う特徴があります。よく言われるのは「非言語が無い」コミュニケーションであるということですが、「匿名性が高く」「対人不安が少ない」コミュニケーションでもあります。

オンライン非対面コミュニケーションという、これまでにはないコミュニケーションが始まり、その影響は社会に人にとさまざまな影響を及ぼしています。一例ですが、metoo運動、誹謗中傷、つながりっぱなし社会、SNS相談等々。また、人の心身の状態や安全にも影響を及ぼしてきています。SNS依存やストレートネックにとどまらず、視力低下、睡眠不足、犯罪被害なども引き起こしてきてしまっています。そういった中、当事者研究のように私自身が受けた影響についても触れたいと思います。

○殿山 希 氏（筑波技術大学保健科学部 教授）

テーマ：IT 社会の明と暗ーダイバーシティが輝けるポスト・コロナの未来へー

コロナ禍において、コンピュータとネットワークを利用した技術の利用が加速した。私は大学で視覚に障害のある人に鍼灸マッサージを教育している。オンライン授業がスタートした当初、私は視覚に障害のある学生が本当にオンライン授業に参加できるのだろうかと心配した。また、手から手に技術を伝える実習授業は対面以外の形で行うことはできないと判断して対面授業を行う決断をした時には、他学科教員から「鍼灸マッサージという仕事は古い。もうそんな教育はやめたらどうか」とまで言われた。そのことが私に人と人の物理的・心理的距離が近い仕事の意味を改めて考えさせた。

本シンポジウムでは、視覚に障害のある人のオンライン環境の一部を短い動画を通して紹介する予定である。障害があってもうまくオンラインにつながる人可以いる。一方、障害の有り無しに関わらずうまくオンラインにつなげられない人もいると考える。オンライン社会で誰が何に困っているのだろうか。その解決策はあるのだろうか。便利になるはずの IT 社会のご利益にすべての人が預かれるための方策を皆様とともに考えたい。



理事の現場から—理解は最大の関係をつくるか？—

○武藤 清栄

(東京メンタルヘルス株式会社社長、日本精神保健社会学会副会長)

コロナ禍にあって次から次へと新型のウィルス感染症が蔓延している。止まることを知らない。日本では、第7波の襲来に恐れを抱いているが、不幸中の幸いというか、軽症や無症状の若い人たちが多く、日本ではそれでも、1日25万人の新規感染者が出ている。総じて若い人たちは、体力があるため、難を乗り越え易い。

一方では、ウクライナ戦争が始まって、半年以上になる。ウクライナ市民や、その関係者の犠牲者は膨大な数にのぼる。アメリカとロシアとの関係、中国やヨーロッパとの関係、日本とアメリカ、アジア諸国との関係など、国状の違い、立場の違い、国連のリーダーシップの欠如もあってか、未来が見えて来ない。暗雲の中に留まっている。「理解は最大の交流を生む」と言われるが、プーチン大統領にしても、ゼレンスキー大統領にしても、その関係者や市民にしても、お互いを理解し、穏やかな交流を生み出してもらいたい。しかし、果たしてそんなことが可能なのだろうか。お互いに敵対し、批判や非難を繰り返している者同士が、相手の立場などに立ち得るものだろうか。「亡くなった人の人生を返してくれ！」「失った物のつけを返してくれ！」市民の気持ちも整理されないまま、戦争が日常化してしまい、ある意味で刺激に対して鈍化している。平和を唱えると逆に寝た子を起こすことにならないか、そんな思考さえ巡らすほどだ。

歴史はいつでも「国盗り物語」で始まって、国盗り物語で終わる。私が歴史嫌いなのはそこにある。私が持っている本の中で、安田徳太郎の「人間の歴史」というシリーズがあるが、それは食の歴史と性の歴史だけである。出来事の状態から言えば、戦争の後始末よりも、食や性の後始末の方が満足を伴う。戦争は悲しみや怒り、それに恨みを伴うだけである。新型コロナウイルス感染症にしろ、戦争にしろ、人間関係にひどく影響を受けている。精神分析学者サリヴァンも、「精神医学は対人関係論である」と言っている。現実には、関係には距離をおきたい時もあれば、関係を深めたい時もある。しかしこれは、関係を紡ぐ上で教養として自覚しておく必要がある。関係を揺るぎのないものにするためには、お互いを理解する必要がある。それには、相手の「人格の尊重」と「親しみに満ちた笑顔」が求められる。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。**2021年度の年会費は、2021年10月1日から2022年9月30日**の期間です。また、**2022年度の年会費は、2022年10月1日から2023年9月30日**の期間です。2022年度の年会費のお支払いをお願い致します。なお、2021年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願い致します。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

ニュースレター寄稿のお願い

年に3回発行するニュースレターに、会員の皆様からのご寄稿を心より歓迎いたします。テーマは、学会への思いやご自身の活動など学会に関連することでしたら、どんな内容でも結構です。

文字数 : 500～800前後

発行時期 : 6月、9月、12月を予定

原稿締切 : 発行の1ヵ月前を目安に事務局にお送りください。

(氏名、電話番号、メールアドレスをご記載ください)



日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局 担当：村上

TEL: 03-3986-3220 FAX: 03-3986-3240 E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金：5,000円

会費：通常会員 5,000円、学生会員 3,000円、賛助会員一口 10,000円（一口以上）、機関会員 20,000円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所属系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			